2014年 2 月 20日

公益財団法人 笹川記念保健協力財団 理事長 喜 多 悦 子 殿

2014年度ホスピス緩和ケアに関する研究助成

研究報告書

研究課題

認知症を伴う高齢がん患者の疼痛アセスメントのプロセス

所属機関·職 札幌市立大学 看護学部 教授

研究代表者氏名 川村 三希子

I. 目的

我が国のがん患者の6割が高齢者であり、高齢者の15%が認知症であると報告されている. すなわち認知症を伴うがん患者が増加していることは自明である.

認知症を伴うがん患者は医療用麻薬の投与量が非認知症患者に比べ少なく,痛みの過小評価,過少治療が報告されている(Bernabei et al., 1998; Davies & Higginson, 2004; Iritani, Thogi, Miyata, & Ohi, 2011). 認知症を伴うがん患者の疼痛アセスメントを困難にさせている要因として,①認知症患者は心身の状態を自らの言葉で適切に表現できず,主観的評価に基づくアセスメントと評価が困難であること,②認知症の症状との関連や識別が困難であること,③既存の認知症の痛みの評価指標は,行動指標による評価であるため,行動学的反応が乏しい慢性疼痛が混在するがん疼痛に使用するには限界があることがあげられる.

兼平、川村他(2012)は、認知症を伴う高齢がん患者の疼痛マネジメントに成功した緩和ケア病棟の熟練練護師の疼痛マネジメントの判断とその特徴を質的記述的方法によって明らかにした。その結果、認知症を伴う高齢がん患者の疼痛マネジメントを成功させる鍵は、看護師の微細かつ継続的なアセスメントにあること、加えて認知症を伴うがん患者の場合は、がん疼痛があるかどうかをキャッチするまでには複雑なアセスメントのプロセスがあることが示唆された。しかしこの研究は2施設の緩和ケア病棟に勤務するがん看護に熟練した看護師を対象とした調査であったため、必ずしも認知症看護に精通している対象ではなかった。また、疼痛ケアの対象は中等度の認知症を対象とした結果であった。以上から本研究では、対象と施設を拡げ調査を行ない、認知症を伴う高齢がん患者のがん疼痛を判断するまでのプロセスを明らかにし一般化を目指す。

II. 研究の内容・実施経過

1. 研究方法

1)研究デザイン:グラウンデッドセオリーアプローチ

本研究は、認知症を伴うがん患者に対して看護師が、患者の何を観察し、どのような 判断をして疼痛アセスメントを行っているか、そのプロセスを明らかにしすることが 目的である. よって、看護師と患者との関わりといった相互作用のプロセスで生じる 行為の解釈や行動、体験を調査するのに適しているグラウンデッドセオリーを選択し た.

2) 対象施設と研究対象者の選定

対象施設の選定: ネットワーク標本抽出法により行う. がん診療連携拠点病院の一般病棟,日本ホスピス緩和ケア協会に登録している緩和ケア病棟,訪問看護ステーションおよび療養型病床で以下の研究対象者が存在する施設.

対象者の選定:対象看護師の選定は,以下の基準に満たした者とする.

- (1) 認知症を伴うがん疼痛マネジメントに優れていると所属する管理者が評価し推薦する看護師.
- (2) 認知症を伴うがん疼痛マネジメントに優れているとスタッフから認められている看護師.
- (3) 認知症を伴うがん患者の疼痛マネジメントに成功した経験がある看護師.
- (4) 調査時、認知症を伴う高齢がん患者をケアしている看護師.
- (5) 看護師としての臨床経験が5年以上ある.
- (6) 研究調査時点で、対象施設での臨床経験が1年以上ある.

参与観察の対象となる認知症を伴う高齢がん患者(以下,対象患者とする)の選定は以下の基準を満たした者とする.

- (1) 65 歳以上でがんの診断を受けている患者.
- (2) 看護師または医師が,がん疼痛を有すると判断して,治療・ケアが実施されている患者.
- (3) 認知症の診断を受けている患者,もしくは診断はされていないが看護師または医師が認知症の疑いがあると考えている患者.
- (4) (1) ~(3) に該当する患者で,看護師による 3DST スケール(櫻井, 2014) で過活動 せん妄,低活動せん妄が除外されている患者.

3) データ収集方法

半構造的インタビューでは看護師の意識化された思考しか得ることができないため、 看護師の潜在的な思考や暗黙知の行動を捉えるため、許可が得られた場合、参加観察 をした場面を通してインタビューを実施し、その行動の意味や目的を聞きとった.

看護師の業務時間内に行動を共にし、ケア場面を参加観察し、その後、ケア場面を振り返りながら半構造的インタビューを1人につき1回実施した.

4) 分析方法

- (1) 録音したインタビューデータから逐語録を作成する.
- (2) データから看護師が観察した内容, 観察した理由, 看護師の考えと行動に関連があると思われる部分に着目し, その意味を適切に表現するラベル名を生成する.
- (3) 参加観察で得たデータを看護師の言動,看護師の行動,患者の言動,患者の行動に着目し,その意味を適切に表現するラベル名を生成する.
- (4) 生成したラベルにプロパティとディメンションをつけ類似性と差異性を見ながらカテゴリーを生成する.

(5) カテゴリー間の関係を比較し現象の構造とプロセスをとらえる

2. 倫理的配慮

研究者の所属する施設の倫理委員会の承認(通知No.1420-1)を得た後に、各施設の倫理的な手続きを得て実施した。研究対象者には、研究目的および方法、研究参加に関する人権擁護、研究の意義および予測される成果、予測される不快または危険とその対応、プライバシーの保全、データの保管と廃棄、研究成果の開示について書面と口頭で説明し同意を得た。参与観察の対象として選定された対象患者に対しても対象者の認知機能の程度に応じて理解しやすいよう書面と口頭で説明した。必要に応じて代理人にも書面と口頭で説明し同意を得た。

III. 研究の成果

1. 対象施設・対象者および患者の概要

対象施設は一般病棟 4 施設,訪問看護ステーション 2 施設,在宅支援診療所 1 施設,療養型介護施設 1 施設,計 8 施設であった.対象看護師は 9 名で全員女性であり,年齢は,32~57 歳で平均 45.4 歳,看護師経験は 10.5 年~37 年で平均 21.3 年,がん看護経験は 9.7 年~37 年で平均 16 年,認知症看護の経験は 9.7 年~22.5 年で平均 15.3 年であった.9 名のうち緩和ケア認定看護師 2 名,認知症看護認定看護師が 2 名であった.結果を表 1 に示す.

また、参加観察または看護師が特定して語った患者 8 名の背景は、膵臓がん、前立腺がんが各々2 名、肺がん、胃がん、乳がん、舌がんが各々1 名で7名が進行がんであった。がんに対する治療は行っていなかった。鎮痛剤を使用している患者は7 名で、Nsaids のみを使用している患者が5 名、オピオイドのみを使用している患者が2 名で併用している患者はいなかった。認知症の確定診断がついている者は5 名であった。

2. 参加観察と半構造化インタビューの概要

9名の対象者のうち参加観察が可能だったのは5名であり1人に対し1回実施した. 参加観察の時間は平均15分であった.4名の対象者は参加観察が出来なかったため半構造化面接の際に可能な限り特定の患者を想起し語ってもらった.面接は1人につき1回実施しインタビュー時間は15分~62分で平均33分であった.

3. 認知症を伴う高齢がん患者の疼痛アセスメントのプロセスについて

認知症を伴う高齢がん患者の疼痛アセスメントのプロセスは,180 コード,70 サブカテゴリー,13 カテゴリーが抽出された.結果を表2に示す.

以下,カテゴリーを【 】,サブカテゴリーを 『 』,コードを 「 」で示し,アセスメントプロセスのストーリーラインを説明する.

認知症を伴う高齢がん患者の疼痛アセスメントのプロセスは、「元々どういう人だった のか、どういう話し方をしていたのかを家族に聞く」など家族から情報を得るなどして 【患者の元々の人となりを把握する】. そして「普段はなごやかな感じの表情だが今日は 目が寄っている」「いつも自力で食べていた人が食事介助を受け付ける」など【いつもの 状態の指標と比べ違いをキャッチする】 そのうえで、「以前の採血データと比較する」な ど**【いつもとの違いの原因を探る】**ことを行っていた. また, いつもとの違いをキャッ チするだけではなく『周囲の音や医療者の存在を気にすることができるか』『会話の多さ や話す内容』などの指標を観察し【患者が穏やかなのか不快なのかを判断(する)】して いた. 不快だと判断した場合は、【患者の個々の痛みの表現方法・能力をアセスメントし. その患者個々の痛み指標を探索(する)】したうえで、【がん性疼痛の可能性を頭に入れ 観察する】,【痛みか痛み以外の症状かを判断する】. また自分だけの診立てではなく【チ 一ムで患者の人となりや痛みに関する情報を共有する】ことを通して【患者個々の痛み 指標を基に、患者のいつもの状態や以前の状態と比べ患者に痛みがあると判断する】、【痛 みの指標が複数ある,持続している場合は痛みが増強していると判断する】,【患者のい つもの状態の指標や痛みの指標と比べ、患者に痛みがない・緩和されたと判断する】と いう判断を行っていた. さらに同時に今の【患者の記憶力と認知力を評価する】、【情報 **の不一致がある際はあらゆる角度から再評価する**】という再評価を行うプロセスであっ た.

4. 考察

本研究結果を緩和ケア病棟の看護師を対象にした疼痛マネジメントの判断と根拠(兼平、川村他、2012)と対比させ考察する。共通点は、看護師は患者に不快や苦痛があるか、それを患者のいつもの状態と比較するという【いつもの状態の指標と比べ違いをキャッチする】という点、【チームで患者の人となりや痛みに関する情報を共有する】という点であった。本研究で明らかになった特徴は、【患者の個々の痛みの表現方法・能力をアセスメントし、その患者個々の痛み指標を探索する】【患者の記憶力と認知力を評価する】といった認知症患者の認知力のアセスメントを継続的に行っていることであった。さらに【痛みの指標が複数ある、持続している場合は痛みが増強していると判断する】という点であった。しかしこの根拠となるデータは限られた対象のものであるため、さらなる検討が必要である。

先行研究や本研究で明らかになっていない点は、看護師がどのように患者個々の**いつもの状態**の指標を作っているのかという点である。看護師個々の暗黙知であるのか、チーム全体で共有した指標を構築しているのかなどは本研究からも明らかになっていない。野中ら(1996)の組織的知識創造理論では、知識には暗黙知と形式知があり、それを個人・集団・組織の間で、相互に絶え間なく変換・移転することによって新たな知識が創造されるとされている。先行研究や本研究でも【チームで患者の人となりや痛みに関す

る情報を共有する】ことが示されている.これは共体験などによって、暗黙知を獲得・ 伝達するプロセス「共同化 (Socialization)」を意味すると推測されるが、十分なデー タに基づいていないため、この点についてはさらなる検討が必要である.

IV. 研究の限界と今後の課題

考察で述べた本研究の未解明点や結果の妥当性を深めるために、対象を増やし検討を重ねていく必要がある。また、本研究で語られた患者は疼痛がコントロールされていたため、疼痛増強時の判断プロセスや鎮痛剤をタイトレーションするプロセスについては明らかになっていないため、この点を明らかにするために対象を絞りサンプリングを行う必要がある。さらに、認知症の重症度による違いについても検討を重ねる必要がある。

V. 研究成果等の公表予定

2016年日本緩和医療学会、またはがん看護学会、ヨーロッパ緩和医療学会にて公表予定.

文献

- Bernabei, R., Gambassi, G., Lapane, K., Landi, F., Gatsonis, C., Dunlop, R., ... for the SAGE Study Group. (1998). Management of pain in elderly patients with cancer. *JAMA*, 279(23), 1877–1882.
- Davies, E., & Higginson, J. I. (2004). Better palliative care for older people (pp. 20-25). World Health Organization regional office for Europe Scherifigsvej 8
- Iritani, S., Thogi, M., Miyata, H., & Ohi, G. (2011). Impact of dementia on cancer discovery and pain. *Psychogeriatrics*, 11(1), 6–13.
- 兼平奈美、川村三希子、内ヶ島伸也、木村公実(2012). 認知症を伴うがん患者の疼痛マネジメントに関する研究. 平成 24 年度笹川記念保健協力財団ホスピス緩和ケアにおけるQOLの向上に関する研究助成報告書
- 櫻井広樹,保坂隆,後藤朝香他(2014). せん妄, うつ, 認知症を同時にスクリーニングするツールの開発. がん看護, 19(4), 434-439.
- 野中郁次郎, 竹内弘高, 梅本勝博(1996). 知識創造企業. 東洋経済新報社.

表1:対象者の背景

データ番号	施設区分	性別	年齢	看護師経験	がん患者のケア経験	認知症のケア経験	専門資格
01DCG	一般病棟	L	32	9年8ヶ月	9年8ヶ月	9年8ヶ月	緩和ケアCN
02DCG	一般病棟	F	34	14年2ヶ月	3年	11年2ヶ月	
03DCV	訪問看護ステーション	F	54	33年6ヶ月	33年6ヶ月	21年10ヶ月	
04DCG	一般病棟	F	41	19年5ヶ月	8年	3年5ヶ月	
06DCG	一般病棟	F	45	22年6ヶ月	22年6ヶ月	22年6ヶ月	
12DCV	訪問看護ステーション	F	57	37年	15年	15年	
15DCV	在宅支援診療所(訪問看護)	F	43	20年	17年	13年	緩和ケアCN
16DCN	療養型介護施設	F	53	20年	20年	16年	認知症看護CN
17DCN	療養型介護施設	F	50	17年	3年	13年9カ月	認知症看護CN

表2:認知症を伴う高齢がん患者の疼痛アセスメントのプロセス

カテゴリー	サブカテゴリー	データ番号	⊐ –۴
をの患	自分から訴える人かどうか	12DCV	患者自身が元々寡黙な人であれば看護師から痛みについて問いかけるようにする。
把人者	性格		性格や患者の個別性は一番大事な情報なので家族から聞き、早い時期に把握する
握とのすな元	音楽などの好み 話し方	4DCG 4DCG	患者のいつもを知る手段: どんな人なのか、もともとどんな音楽を聴いていたのかを家族から聞く 患者のいつもを知る手段:元々どういう人だったのか、どういう話し方をしていたのかを家族に聞く
るり々	趣味		記者のV**プもを知る子女・ルベと ブV・ブスにもためが、と ブV・ブ品と力を じ C V にのがを家族に聞く 元々の患者の趣味を知っている
いっつ	返答の早さ・声の大きさ・トーン	4DCG	いつもとの違い:看護師が話しかけた時に返答する速さ・声のトーン・声の大きさ
*6	目つき・顔色・表情	2DCG	普段はなごやかな感じの表情だが今日は目が寄っている
が状		1DCG 4DCG	痛みに関係なく表情にはわりとムラがある いつもの様子との違い 目が開くかどうか
態		17DCN	いつもとの違い:顔色・
Ø) Ha			挨拶をするか、
指点標	看護師とのコミュニケーション	4DCG	視点を合わせるか
する比		4DCG 4DCG	看護師に興味を示すかを以前と比べる (40各々を以前と比べる) ありがとうという気遣いができるか
~	姿勢の保持	4DCG	いつもの様子との違い 座位の時の体の傾き
違い		17DCN	いつもとの違い:体を支えられない・姿勢が崩れる
を			いつもとの違い:昨日までトイレ立てていたのに今日は全然立てない
キャ	睡眠パターン		いつもの様子との違い:日中の睡眠時間 いつもとの違い:夜寝ない
ッ	食事の動作	17DCN	いつもとの違い:いつも自力で食べていた人が食事介助を受け付ける
チ	及事。公郎儿上	4DCG	食事のスプーンをすぐに口に運んだか、
UV.			
つ	せん妄から体調不良を予測する		せん妄を起こすと体調不良を予測する
\$ * \$	バイタルサインをチェックする	17DCN	いつもとの違い:何か気になってバイタルはかるけど正常値。でも何か違うときは他の原因を探る
を top			いつもと違う その原因を探る手段としてバイタルを測定する いつもと違うその原因を探る:食事量が少ないことが続いているのかどうか経過表を見る
が違るい	過去の経過表を見ていつ頃から変化したのかを比較す る		経過表を見て、この時期から何か起きているのかもしれないと判断する
の		17DCN	以前の採血データと比較する
原因	昨日からの急な変化は身体に異常がある	17DCN	昨日までとれていた行為が急に出来なくなる場合は身体的に具合が悪く行動を遂行できないという気がする
M			
惠	周囲の音や医療者の存在を気にすることができる	2DCG	穏やかな状態のときは、周りの音に反応して周囲を見渡している感じ
み者			医療者を気にしている時は穏やかで落ち着いているときだと思う
の穏	痛みを言語で表現できる	1DCG	聞くと痛みの表現が具体的に言えるようになったので 精神状態が凄く安定していると感じる
が穏や、		2DCG 2DCG	苦悶の表情があるので、どこかに不快感があるのではないかと思う 眉間のしわ、目を見聞いているような表情から創部に違和感を感じていると思う
判か	表情	4DCG	安楽のサイン: 睡眠時の眉間のしわの有無
断の			快・不快: 笑顔などの表情
る不	会話の多さや話す内容		快・不快:会話の内容、会話の量
快	意欲動作	6DCG 3DCV	薬の影響なのか意欲が低下していたとき苦痛があったが、今はリハビリにも意欲的になっているので苦痛はないと思う 快・不快をとらえる→動作
	2011		N 1 1/10 0 3/10 WIII
患			傷口の痛みは表現ができる
者の	痛みがある時、音楽で表現ができるか、	1DCG 1DCG	動ける程度に痛みが軽減すると聞くと痛みを表現する
個		15DCV	手術前後の様子が結構違うので問いを理解して表現できているかは心配 歯の痛みを訴えたので、歯肉の腫脹を確認し歯科受診の手続きをする
その		17DCN	痛いという患者からの訴えはあった
の海			痛いことは訴えれらた
者の		17DCN 4DCG	家族が痛みを繰り返し効くとうなずく(けど痛いかは疑わしい)
100 表			気遣いがある人なので理解しなくてもハイという可能性がある 痛い・痛くないはオウム返しの状況なので言葉での痛みの観察は難しいと判断
の先		17DCN	言葉の表現は曖昧だと判断:痛いと訴えていたが、痛みどめが効いていますよというとそうですかという感じだった
7. 法		15DCV	下肢の浮腫による痛みを訴える
	ales a la constante a	3DCV 15DCV	痛い時に痛みの性質をいくつかあげると答えられるだろう 看護師が痛みの性質を表現して尋ねると今感じている痛みは答えられる
二 九	痛みの性質を表現できるか	4DCG	足をさすっていた際に、痛みがあるのかを本人に尋ねると辛いと言った
探ぐ		6DCG	足がだるい、かゆいなどは訴えられるので痛みかそれ以外の快は不快かは判断できる
索セ	痛みの強さを表現できるか	3DCV 17DCN	今の痛みの強さは訴えられるだろう フェイススケールは曖昧だと判断:フェイススケールを使用したがいつも一番痛いを選んでいた
るメ			痛いときは、動くのが大変になり鎮痛薬を探す、困ったと言うだろう
ン		6DCG	痛みは表情と払いのけたりする態度で訴えるだろう
F	患者なりの痛み指標を把握する	16DCN	言葉による判断が難しいので主に表情と動作で痛みを判断
ν,		16DCN 17DCN	聞いても通じないので痛みがあると思われる場所を触って確認 NCを押して痛みを訴えることはない
		2.200	
		3DCV	多発骨転移があるかもしれない
がん	骨転移による症状を推測し観察する	4DCG	骨の転移があるので体動時に痛いのではと推測する
性	The same of the second of PROPER S. O.	4DCG	前立腺がんなので腰椎転移を予測し、足のしびれの有無観察
疼痛		15DCV	骨転移の可能性を考える
の		1DCG	痛みがないという情報があったが、がんの神経叢浸潤に伴う痛みがあってもおかしくない状態という情報
可能	神経障害性疼痛を推測し観察する	16DCN	痛みの性質はわからない
性		15DCV	痛みの性質は、触ってしびれるかどうかたずねる
を頭	がんの進行や痛みの原因について医師の診立てを参考 にする	4DCG 15DCV	以前は、ギャッジアップした際に足をさすっていたが最近はその様子がないので足の感覚が鈍くなっているのではと推測する 触診と採血データ(腫瘍マーカー・貧血)で病態を予想する
K		12DCV	無診と採血アーク ()性物ペールー・負血」と病態を下述する 病状の進行度などについては医療連携がとれている
入れ		12DCV	痛がっている部位があれば医師に報告し医師の診立てを聞く
観	痛みが持続するかどうかを観察する	16DCN	痛みの持続はないので医師と話しがん性疼痛ではなさそうだと判断
察す	がん以外による痛みの可能性を考える	16DCN	前立腺がんがあるのでバルーンカテーテル挿入による痛みの可能性も考える
5	がんの進行の有無により痛みの強さの変化を予測する	2DCG	がんなのでこれ以上痛みが強くなる可能性があると思う
	IMITO	6DCG	がんが進行していないのでがんの痛みではないと思う
痛	金市県の連点 IPI - ピーローコー	12DCV	痛みかどうかの違いは、食事の量
チ	食事量の減少・ADLの低下があるか	12DCV	痛みかどうかの違いは、食事ADLがどのくらい低下しているかどうか
かか を痛	いつも受け入れていたケアを拒否するか		痛みかどうかの違いは、いつも受け入れていた清試を拒否するかどうか
判み	イライラしているか	4DCG 16DCN	痛みか痛み以外か: いらいらした言動か 不満によるイライラと痛みのイライラはちょっと違う
断以 す外		4DCG	本画によるイフイフと抽みのイフイフはちょっと逢う 痛みか痛み以外か: 元々穏やかな人だったのに口調が変わる (イライラする) と変だと思う
るの	食事・睡眠・リハビリの意欲	4DCG	痛みか痛み以外か:リハビリに意欲的か、食事を食べる意欲はあるか、睡眠の状況など日常生活に支障が出ていないか
症状	不安はないか	12DCV	痛みとの違い:睡眠状態や不安状態を観て、不安が強ければ安定剤を投与し対応する
	精神的要因かどうか	12DCV	家族内の争い事であれば安定剤。お腹を押さえながら騒いでいたら痛みと判断して対応する

-			術後の痛い時は無表情で家族以外に反応を示さなかった
者個		1DCG 17DCN	術後の痛い時は表情が暗かった 自分の痛みを訴えられない人でも体動時には声や表情でわかる
々の痛み指	表情の変化	17DCN	認知症で痛みを言葉で表現できなくても痛いときは顔をしかめると思う。そういうのがなければ痛くないと思う。
			穏やかでニコニコしている顔から、眉間にしわが寄り、顔をすごくしかめるという苦痛に歪む顔へ変化する もともと穏やかで実顔の多い患者だったのに排ガス・排便時に穏やかな表情から凄く苦痛な表情に一変した
			新をしかめて食事を飲みこむのに顔を押さえてうずくまる
標			痛みが出てきた様子:なんとなく冴えない妻情, 笑顔が少ない 術後の痛い時は顔をしかめていた
を基			術後に痛みがある時は動かず無視することで痛みを表現していた
Ę	問いかけへの反応		術後の痛い時はコミュニケーションがとれなかった
患者	言葉以外の表現がある	6DCG 6DCG	(痛い時は)ナースコールを押して足の痛みやだるさを頻繁に訴えていた 更衣時に腕が痛いと訴えたり、顔をちょっとしかめる
あの		6DCG	歯磨きで睨んでいたのは痛かったためだろう
るい とつ		6DCG 6DCG	痛みの表現:壁を叩く 痛みの表現:ベッド柵を叩く
判も断の		2DCG	呼吸の吐きだし音と下肢の緊張亢進が同時に起きるときは劇的に痛みを感じていると思う
す状る態	呼吸と体の緊張	2DCG 2DCG	体全体に力が入り緊張している 苦悶の表情とともに足が跳ね上がる
\$		2DCG	力んだときの呼吸音 (気管切開部)
以前	食事量の減少と食事に要する時間		ゼリーを数口食べるのを何時間もかかるくらい痛そうだった 食事時間が普段は1時半班要していたのが40分で食べられると(痛みが緩和されたと思う)
の状		17DCN	痛みの程度 食べる時間と量
状態と比べ患者に痛る	落ち着きのなさ	17DCN 16DCN	痛いとは言えないが行動で現れる。座っていられる人がそわそわしてじっとしていられない 穏やかな方がいつもと違うイライラを示す
			何とも言えず落ち着かない、とにかくじっとしていられない、腰を押さえる、嫌だというように顔をしかめる
		4DCG	ケア時に患者がしびれた足を動かすかどうか
	動き方	15DCV	レスキューの効果が切れると動き始めるという家族からの情報
		1DCG	痛みがあると歩き方が変化する
み が	同じ部位を触る	16DCN 17DCN	腹部と腰部を手で押さえて確認すると痛いと言う
_		17DCN	痛みの判断:同じ部位をずっと触っている
チー	患者の人となりをチームで共有する	12DCV	カンファレンスでチームで患者の人となりの情報を共有する
ムで			介護日誌で情報を共有する
患	ノートや記録に残し情報を共有する	12DCV	患者の情報が行き渡らない場合もあるのでノートを使用している。
者の		4DCG	痛みのことで引継ぎが必要な時は申し送りや記録に残す
业人	チーム内で患者の状態を直接見て共有する	12DCV	必ず全員のスタッフが患者を1度は訪問するようにする
となり		12DCV 16DCN	複数で訪問するようにして情報を共有する 苦痛表情時に痛みの部位や程度をよく観察することをチームで共有
	痛みの部位・発生要因についてチーム内で共有する	16DCN	チーム内で痛みの程度を共有するためにフェイススケールを使用して痛みの経過を追う
- 涌 み		15DCV 16DCN	常に看護、ヘルパーさん、家族など全部の情報を入れながら何がおきているのかを判断する どういうときに、どんな風に痛いのかを睡眠状況を含めてチームで共有
に関		2DCG	痛みの評価や推察がチーム内で一定ではない
す	チーム内で痛みの評価を共有していない	2DCG	痛いか痛くないのかチームで同じ物差しを持つのが難しい
る 情	y and composition and and and and and and and and and an	2DCG	患者の痛みの感じ方がスタッフ個々に違うのでケアの仕方も違ってくる
報		4DCG	チーム内で痛みの有無について確認していない
い痛	睡眠・休息がとれない	16DCN	痛みの増強のサイン:しっかり休息が取れていない
るみ場の	HERE MINERS CARRAS	16DCN 16DCN	痛みの強さのサイン: 鎮痛剤を使用しても眠剤を使用しても効果がなく眠れない
合指は標	姿勢の保持が不能な状態が続く		痛みの増強のサイン: 座位保持ができなくなったので座位で苦痛があるようだ 痛みの強さのサイン: 座って食事が食べれなくなった状況が続いた
_{set} 痛が	イライラすることが増える	16DCN	棚みの娘さのサイン: 使つじ食事が良べればいばつに私沈か校いに 痛みの強さのサイン: イライラしていることが増えた
刊み複 断が数	本を揺らしながら顔がゆがむ		痛みがひどい時は体を揺らしながら顔が歪む
	神を辿りしなから願かゆかむ	TODGA	用かかいC √ 両は下を辿り C なかり線が正で
が増ある強み			
る強る、	周囲からの接触を拒む	16DCN	痛みが強い時は話しかけられるのもうっとうしいといわんばかりにうるさいと言う
っ 強してい 続	周囲からの接触を拒む	16DCN 16DCN	痛みが強い時は話しかけられるのもうっとうしいといわんばかりにうるさいと言う 痛みが強くない時は医療者に注意を向けて返答してくれる
っ 強る、 して持	周囲からの接触を拒む 痛い部分を押さえ表情が苦しそうで落ち着きがない	16DCN	
る 強している 持続し		16DCN 16DCN	痛みが強くない時は医療者に注意を向けて返答してくれる 痛みの強きのサイン: 左側腹部や腰部を押さえながら前屈みになってこらえるようにぐるぐる歩き回る
る、持続していると 患		16DCN 16DCN 1DCG	痛みが強くない時は医療者に注意を向けて返答してくれる 痛みの強さのサイン: 左側腹部や腰部を押さえながら前間みになってこらえるようにぐるぐる歩き回る 朝から自分で歩いている
る 強していると 患者の	痛い部分を押さえ表情が苦しそうで落ち着きがない	16DCN 16DCN 1DCG 1DCG 3DCV	痛みが強くない時は医療者に注意を向けて返答してくれる 痛みの強さのサイン: 左側腹部や腰部を押さえながら前間みになってこらえるようにぐるぐる歩き回る 朝から自分で歩いている 高ら着くにつれて足取りも問題なくなっていった 痛みはないーかが縁手もなく普通に歩く、
る 強していると 患者のいつ	痛い部分を押さえ表情が苦しそうで落ち着きがない	16DCN 16DCN 1DCG 1DCG 3DCV 1DCG	痛みが強くない時は医療者に注意を向けて返答してくれる 痛みの強とのサイン: 左側腹部や腰部を押さえながら前間みになってこらえるようにぐるぐる歩き回る 棚から自分で歩いている 落ら着くにつれて足取りも問題なくなっていった 痛みはないーかは学様子もなく普通に歩く、 食後30分間の座位保持が可能な状態
る 強していると 患者のいつもの	痛い部分を押さえ表情が苦しそうで落ち着きがない	16DCN 16DCN 1DCG 1DCG 3DCV	痛みが強くない時は医療者に注意を向けて返答してくれる 痛みの強さのサイン: 左側腹部や腰部を押さえながら前間みになってこらえるようにぐるぐる歩き回る 朝から自分で歩いている 高ら着くにつれて足取りも問題なくなっていった 痛みはないーかが縁手もなく普通に歩く、
る 強していると 患者のいつもの状: みがな	痛い部分を押さえ表情が苦しそうで落ち着きがない 歩き方の変化	16DCN 16DCN 1DCG 1DCG 3DCV 1DCG 6DCG 3DCV	痛みが強くない時は医療者に注意を向けて返答してくれる 痛みの強とのサイン: 左側腹部や腰部を押さえながら前器みになってこらえるようにぐるぐる歩き回る 朝から自分で歩いている 落ら着につれて足取りも問題なくなっていった 痛みはないーかけ業年もなく普通に歩く、 食後30分間の座位保持が可能な状態 率いすからペッドに移乗できたので痛みはないと判断する 痛みはない→いつもと同じ動き方、、
の 強していると 患者のいつもの状態の みがない	痛い部分を押さえ表情が苦しそうで落ち着きがない 歩き方の変化	16DCN 16DCN 11DCG 1DCG 3DCV 1DCG 6DCG 3DCV 1DCG	痛みが強くない時は医療者に注意を向けて返答してくれる 痛みの強とのサイン: 左側腹部や腰部を押さえながら前器みになってこらえるようにぐるぐる歩き回る 朝から自分で歩いている 落ち着につれて足取りも問題なくなっていった 痛みはない→がき様子もなく普通に歩く、 食後30分間の座位保持が可能な状態 率いすからペッドに移乗できたので痛みはないと判断する 痛みはない→いつもと同じ動き方、、 手術前は小刻みで不安定な歩き方だった
の 強していると 患者のいつもの状態の指 る、特続して	痛い部分を押さえ表情が苦しそうで落ち着きがない 歩き方の変化	16DCN 16DCN 1DCG 1DCG 3DCV 1DCG 3DCV 1DCG 1DCG 1DCG	痛みが強くない時は医療者に注意を向けて返答してくれる 痛みの強さのサイン: 左側腹部や腰部を押さえながら前間みになってこらえるようにぐるぐる歩き回る 朝から自分で歩いている 落ち着につれて足取りも開始なくなっていった 痛みはない・かが3 繰りもしな 普通に歩く、 全後30分間の座位保持が可能な状態 車いすからペッドに移乗できたので痛みはないと判断する 痛みはない・いつもと同じ動き方、、 手術前は小剣みで不安定な歩き方だった 痛みが楽になったサイン: 何時間かの関格子に座れる。
を 強していると 患者のいつもの状態の指標や る、特続して	痛い部分を押さえ表情が苦しそうで落ち着きがない 歩き方の変化 動き方の変化	16DCN 16DCN 1DCG 1DCG 3DCV 1DCG 6DCG 3DCV 1DCG 1DCG 1DCG 16DCN	痛みが強くない時は医療者に注意を向けて返答してくれる 痛みの強さのサイン: 左側腹部や腰部を押さえながら前間みになってこらえるようにぐるぐる歩き回る 朝から自分で歩いている 落ち着につれて足取りも開始なくなっていった 痛みはないかは少様子もなく普通に歩く、 友後30分間の座位保持が可能な状態 車いすからベッドに移乗できたので痛みはないと判断する 痛みはない→いつもと同じ動き方、、 手術前は小頬みで不安定な歩き方だった 痛みが楽になったサイン: 何時間かの関係子に座れる、 表情を良い 素和な配ったなる
6 強していると 患者のいつもの状態の指標や痛みの みがない・緩和された	痛い部分を押さえ表情が苦しそうで落ち着きがない 歩き方の変化	16DCN 16DCN 1DCG 1DCG 3DCV 1DCG 6DCG 3DCV 1DCG 1DCG 1DCG 16DCN 1DCG 16DCN 6DCG	痛みが強くない時は医療者に注意を向けて返答してくれる 痛みの強さのサイン:左側腹部や腰部を押さえながら前限みになってこらえるようにぐるぐる歩き回る 動から自分で歩いている 高を力性ないーかはう様子もなく普通に歩く、 食後の分間の座位保持が可能と状態 単いすからベッドに移乗できたので痛みはないと判断する 痛みはないーかいのもと同じ動き方、、 手術前は小刻みで不安定な歩き方だった 痛みが楽になったサイン:何時間かの関格子に座れる。 表情も良い 素和な悪になる 無表情な性に突曲が見られるようになっているので楽になっているのだろう:痛みの有無
会 強していると 患者のいつもの状態の指標や痛みの指標 の対態の指標や痛みの指標	痛い部分を押さえ表情が苦しそうで落ち着きがない 歩き方の変化 動き方の変化	16DCN 16DCN 16DCN 1DCG 1DCG 3DCV 1DCG 6DCG 3DCV 1DCG 16DCN 1DCG 16DCN 1DCG 6DCG 3DCV 3DCV 1DCG 16DCN 1DCG 16DCN 1DCG 3DCV	痛みが強くない時は医療者に注意を向けて返答してくれる 痛みの強さのサイン:左側腹部や腰部を押さえながら前限みになってこらえるようにぐるぐる歩き回る 動から自分で歩いている 高みはないーかはう様子もなく普通に歩く、 食後の分間の座位保持が可能と状態 率いすからベッドに移乗できたので痛みはないと判断する 痛みはないーいのもと同じ動き方、、 手術前は小剣みで不安定な歩き方だった 痛みが楽になったサイン:何時間かの関格子に座れる、 表情も長い。 表和と離れてない。大手を表示しているので楽になっているのだろう:痛みの有無 術後は移やかな様子で意思感動がはかれる 無後情が争い、実情が穏やか
会 独していると 患者のいつもの状態の指標や痛みの指標と る、持続して	痛い部分を押さえ表情が苦しそうで落ち着きがない 歩き方の変化 動き方の変化	16DCN 16DCN 16DCN 11DCG 1DCG 3DCV 1DCG 6DCG 16DCN 1DCG 16DCN 1DCG 16DCN 1DCG 1DCG 1DCG 1DCG 1DCG 1DCG 1DCG 1DCG	痛みが強くない時は医療者に注意を向けて返答してくれる 痛みの強さのサイン:左側腹部や標節を押さえながら前限みになってこらえるようにぐるぐる歩き回る 動から自分で歩いている 高らまさにつれて足取りも問題なくなっていった 痛みはないーかけら降子もなく音通に歩く、 食後切り間の座位除時が可能な状態 ないすからペッドに移乗できたので痛みはないと判断する 痛みはない→いつもと同じ動き方、. 手術前は小痢スマ不安定な歩き方だった 痛みが寒になったサイン:何時間かの間椅子に座れる、 麦情も良い 左和と離しなる 悪変術と平に英麗が見られるようになっているので薬になっているのだろう:痛みの有無 術後は色やかな降子で意思速度がはさかれる 天情に明らかかな降子で思想速度がはさかれる 天情に明らかなな降子で思想速度がはさかれる 天情に明られて、実情が穏やかっな
の 独していると 患者のいつもの状態の指標や痛みの指標と みがない・緩和されたと判断	痛い部分を押さえ表情が苦しそうで落ち着きがない 歩き方の変化 動き方の変化 数情の変化	16DCN 16DCN 11DCG 1DCG 3DCV 1DCG 6DCG 3DCV 1DCG 16DCN 1DCG 16DCN 1DCG 16DCN 6DCG 1DCC 3DCV 6DCG	痛みが強くない時は態療者に注意を向けて返答してくれる 痛みの強さのサイン: 左側腹部や腰部を押さえながら前間みになってこらえるようにぐるぐる歩き回る 朝から自分で歩いている 落ら着くにつれて足取りも問題なくなっていった 痛みはないとから維持をして、普通に歩く、 食後90分間の座位を持が可能な状態 ないすからベッドに移棄できたので痛みはないと判断する 痛みはないしいらもと同じ動き方、、 手術前は小別みで不安定な歩き方だった 痛みが楽になったサイン: 何時間かの関格子に座れる, 数情も良い 変和な無になる 無数者な中に交通が見られるようになっているので薬になっているのだろう: 痛みの有無 術後は穏やかな様子で意思嫌適がはかれる 表情が明むインニールで誇えてくるか、痛い表情をするが、今日は実顔があったし 食事形態といる
会 独していると 患者のいつもの状態の指標や痛みの指標と る、持続して	痛い部分を押さえ表情が苦しそうで落ち着きがない 歩き方の変化 動き方の変化 数情の変化 食事量 穏やかさ 薬が使用されていない	16DCN 16DCN 16DCN 1DCG 1DCG 3DCV 1DCG 6DCG 1DCG 16DCN 1DCG 16DCN 1DCG 16DCN 6DCG 1DCG 3DCV 6DCG 1DCG 3DCV 3DCV 3DCV 3DCV 3DCV 3DCV 3DCV 3DCV	痛みが強くない時は医療者に注意を向けて返答してくれる 痛みの強さのサイン:左側腹部や標節を押さえながら前限みになってこらえるようにぐるぐる歩き回る 動から自分で歩いている 高らまさにつれて足取りも問題なくなっていった 痛みはないーかけら降子もなく音通に歩く、 食後切り間の座位除時が可能な状態 ないすからペッドに移乗できたので痛みはないと判断する 痛みはない→いつもと同じ動き方、. 手術前は小痢スマ不安定な歩き方だった 痛みが寒になったサイン:何時間かの間椅子に座れる、 麦情も良い 左和と離しなる 悪変術と平に英麗が見られるようになっているので薬になっているのだろう:痛みの有無 術後は色やかな降子で意思速度がはさかれる 天情に明らかかな降子で思想速度がはさかれる 天情に明らかなな降子で思想速度がはさかれる 天情に明られて、実情が穏やかっな
を 独していると 患者のいつもの状態の指標や痛みの指標と比べ、患者 みがない・緩和されたと判断する	痛い部分を押さえ表情が苦しそうで落ち着きがない 歩き方の変化 動き方の変化 数情の変化 女情の変化	16DCN 16DCN 16DCN 1DCG 1DCG 3DCV 1DCG 6DCG 1DCG 16DCN 1DCG 16DCN 1DCG 16DCN 1DCG 16DCN 1DCG 3DCV 1DCG 3DCV 1DCG 3DCV 1DCG 1DCG 3DCV 1DCG 1DCG 1DCG 1DCG 1DCG 1DCG 1DCG 1DCG	痛みが強くない時は医療者に注意を向けて返答してくれる 痛みの強さのサイン:左側腹部や標節を押さえながら前限みになってこらえるようにぐるぐる歩き回る 動から自分で歩いている 悪ち書くにつれて足取りも問題なくなっていった 痛みはないーかける様子もなく普通に歩く、 食後39分間の歴に保持が可能な状態 和いすからペッドに移乗できたので痛みはないと判断する 痛みはないーいつもと同じ動き方、 手術前は小角みで不安定な歩き方だった 痛みが素になったサイン:何時間かの間椅子に座れる、 変情も良い 左右に振いたる 服実前なやれた様子で意見を通がはかれる 表情が弱かった。 実情が弱やかな様子で意思を通がはかれる 表情が弱かった。 実情が弱やかな様子で意思を通がはかれる 表情が弱かった。 実情が弱やかった 電いサナースコールで訴えてくるか、痛い実情をするが、今日は実顔があったし 食事形態も見かます。 食事形態も見かます。 電かはないたろう。種やかに遊ごしている。
を 独していると 患者のいつもの状態の指標や痛みの指標と比べ、患 のいつもの状態の指標を痛みの指標と比べ、患	痛い部分を押さえ表情が苦しそうで落ち着きがない 歩き方の変化 動き方の変化 数情の変化 食事量 穏やかさ 薬が使用されていない	16DCN 16DCN 1DCG 1DCG 3DCV 1DCG 6DCG 3DCV 1DCG 16DCN 1DCG 16DCN 6DCG 1DCG 3DCV	痛みが強くない時は眩療者に注意を向けて返答してくれる 痛みの強さのサイン:左側腹部や腰部を押さえながら前限みになってこらえるようにぐるぐる歩き回る 動から自分で歩いている 落ち着くにつれて足取りも問題なくなっていった 痛みはないーかせう様子もなく普通に歩く、 食後の分間の座位保持が可能な状態 単いすからベッドに移乗できたので痛みはないと判断する 痛みはないーいのもと同じ動き方、、 手術前は小剣みで不安定な歩き方だった 痛みが楽になったサイン:何時間かの関格子に座れる、 表情も長い。 表和と強になったサイン:何時間かの関格子に座れる。 表情も長い。 素和と使いかな様子で意思感動がはかれる 素を指し続いた。 実情が弱から、実情が弱やかっ 電い時はナースコールで導えてくるか、痛い表情をするが、今日は笑顔があったし 食事形像はも好っな様子で意思を通かに添えている。 な過れないたろう・穏やから選手している。 痛みはないたうう・穏からたし 食事形像はも好っな様子である。一般からに適じます。
も 独していると 患者のいつもの状態の指標や痛みの指標と比べ、患者に みがない・緩和されたと判断する	痛い部分を押さえ表情が苦しそうで落ち着きがない 歩き方の変化 動き方の変化 数値の変化 食事量 穏やかさ 薬が使用されていない 言語による表現がない	16DCN 11DCG 11DCG 11DCG 11DCG 6DCG 11DCG 11DCG 11DCG 11DCG 16DCN 11DCG 6DCG 16DCN 11DCG 6DCG 10DCS 3DCV 6DCG 3DCV 6DCG 3DCV 6DCG 3DCV 6DCG 5DCC 5DCC 6DCG 5DCC 6DCG 5DCC 6DCG 6DCG 6DCG 6DCG 5DCC 6DCG 6DCG 6DCG 6DCG	痛みが強くない時は医療者に注意を向けて返答してくれる 痛みの強さのサイン:左側腹部や腰部を押さえながら前部みになってこらえるようにぐるぐる歩き回る 動から自分で歩いている 高ら者につれて足取りも問題なくなっていった 痛みはないっから様子でなき過ぎ歩く、 食後30分間の座位保持が可能な状態 率いずからペッドに移乗できたので痛みはないと判断する 痛みはないいかいらと同じ動き方、、 手術前は小別みで不安定な歩き方だった 痛みが楽になったサイン:何時間かの間精子に度れる, 変情も良い 素和な細になる 無支格な一に交通が見られるようになっているので薬になっているのだろう:痛みの有無 物後は哲やかな様子で意思検慮がはかれる 実情が明らい、、実情が穏やか 高かはないがよう一般やかに強くしている。 痛みはないがあう一般やかに強くしている。 痛みはないがあう一般やかに強くしている。 痛みはないがあう一般やかに適くしている。 痛みはないがあう一般をかに適くしている。 痛みはないがあう一般をかに適くしている。 痛みはないがあう一般をかに適くしている。 痛みはないと言う
9 独していると 患者のいつもの状態の指標や痛みの指標と比べ、患者に痛 患	痛い部分を押さえ表情が苦しそうで落ち着きがない 歩き方の変化 動き方の変化 数値の変化 食事量 穏やかさ 薬が使用されていない 言語による表現がない	16DCN 16DCN 1DCG 1DCG 1DCG 6DCG 1DCG 1DCG 1DCG 1DCG 1DCG 1DCG 1DCG 1	痛みが強くない時は態度者に注意を向けて返答してくれる 痛みの強さのサイン:左側腹部や腰部を押さえながら前間みになってこらえるようにぐるぐる歩き回る 朝から自分で歩いている 落ら者につれて足取りも問題なくなっていった 痛みはないというと解すが可能な状態 ないすからベッドに移乗できたので痛みはないと判断する 痛みはないしいらも同じ動き方、、 手術前は小別みで不安定な歩き方だった 痛みが薬になったサイン:何時間かの関格子に座れる。 数種も良い 変和な個になる 趣要者で中に変重が見られるようになっているので薬になっているのだろう:痛みの有無 術後は穏やかな様子で意思嫌適がはかれる 表情が明むアースールで誇えてくるか、痛い実情をするが、今日は実顔があったし 食事摂取動も良好 食事摂取動も良好 食事摂取動も見好 素がはないどろう一穏やかに過ごしている。 痛みはないどろう一種やかに過ごしている。 痛みはないどろう一種やかに過ごしている。 痛みはないどろう一種やかに過ごしている。 痛みはないどろう一種やかに過ごしている。 痛みはないどろう一種やかに過ごしている。 痛みはないどろう一種やかに過ごしている。 痛みはないと言う 素になったサインは寝ること 最近のことをどのくらい覚えているか、記憶力を確認する(患者の言動を信じる度合いにつながる) 家族からの質問にどう答えているか、記憶力を確認する(患者の言動を信じる度合いにつながる) 家族からの質問にどう答えているか、記憶力を確認する(患者の言動を信じる度合いにつながる) 家族のもの質問にどう答えているか、記憶力を確認する(患者の言動を信じる度合いにつながる) 家庭のことをどのくらい覚えているか、記憶力を確認する(患者の言動を信じる度合いにつながる)
の 独していると 患者のいつもの状態の指標や痛みの指標と比べ、患者に痛 患者の	痛い部分を押さえ表情が苦しそうで落ち着きがない 歩き方の変化 動き方の変化 数値の変化 食事量 穏やかさ 薬が使用されていない 言語による表現がない	16DCN 16DCN 11DCG 1DCG 1DCG 1DCG 6DCG 1DCG 1DCG 1DCG 1DCG 1DCG 1DCG 1DCG 1	痛みが強くない時は態度者に注意を向けて返答してくれる 痛みの強さのサイン:左側腹部や腰部を押さえながら前限みになってこらえるようにぐるぐる歩き回る 動から自分で歩いている 高をおせないーかはう様子もなく普通に歩く、 食後の分間の座位保持が可能な状態 単いすからベッドに移乗できたので痛みはないと判断する 痛みはないーかいのもと同じ動き方、、 手術前は小刻みで不安定な歩き方だった 痛みが楽になったサイン:何時間かの関格子に座れる。 表情を良い 素和になる 無変情な中に突曲が見られるようになっているので楽になっているのだろう:痛みの有無 術後は移やかな解子で意思地維がはかれる 無変情な中に突曲が見られるようになっているので楽になっているのだろう:痛みの有無 術後は移やかな解子で意思地維がはかれる 養殖が弱わい、実情が穏やか 臨い時はナースコールで訴えてくるか、痛い表情をするが、今日は実績があったし 食事が理なしら好。 電みはないとう 電みはないとう。 電みはないとう。 電みはないとう。 電みはないとうう 薬になったサインは寝ること 最近のことをどのくらい覚えているか、記憶力を確認する(患者の言動を信じる度合いにつながる)
9 独していると 患者のいつもの状態の指標や痛みの指標と比べ、患者に痛 患者の記憶	痛い部分を押さえ表情が苦しそうで落ち着きがない 歩き方の変化 動き方の変化 数値の変化 食事盤 穏やかさ 薬が使用されていない 言語による表現がない 騒撃がとれている	16DCN 11DCG 11DCG 11DCG 11DCG 11DCG 6DCG 11DCG 1	痛みが強くない時は眩厥者に注意を向けて返答してくれる 痛みの強さのサイン:左側腹部や腰部を押さえながら前限みになってこらえるようにぐるぐる歩き回る 動から自分で歩いている 落ち着くにつれて足取りも問題なくなっていった 痛みはないーかはう様子もなく普通に歩く、 食後の分間の原位保持が可能な状態 並いすからベッドに移乗できたので痛みはないと判断する 痛みはないーいつもと同じ動き方、、 手術前は小剣みで不安定な歩き方だった 痛みが寒になったサイン:何時間かの関格子に座れる、 表情を見いる 表現を上なったサイン:何時間かの関格子に座れる。 表情も良い を和と違いる 表情の弱い、実情が穏かか、 高い時はナースコールで弱えてくるか、痛い表情をするが、今日は笑顔があったし 食事形像は色やかな様子で意思を進かれなれる 素を持ち得い、 実情が穏から、 素情が弱った。 素が表情が弱い、実情が穏かか。 素が表情が弱い、実情が穏かか。 素のまましたと表現ましたとで訴えてくるか、痛い表情をするが、今日は笑顔があったし 食事形像は色かなな様子で思想を進かれている。 痛みはないたうの一般やかに強ごしている。 痛みはないたうの一般やかに強ごしている。 痛みはないたうの一般やかに強ごしている。 痛みはないたうの一般やかに強ごしている。 痛みはないたうる 素がしたいた。 痛みにないため 素がれないと言う 素になったサインは寝ること 最近のことをどのくらい覚えているか、記憶力を確認する(患者の言動を信じる度合いにつながる) 素成かの実際となくない。大きないないないないないないないないと思くないと思くないないないないないないないないないないないないないないないないないないない
6 独していると 患者のいつもの状態の指標や痛みの指標と比べ、患者に痛 患者の記	痛い部分を押さえ表情が苦しそうで落ち着きがない 歩き方の変化 動き方の変化 数値の変化 食事盤 穏やかさ 薬が使用されていない 言語による表現がない 騒撃がとれている	160CN 160CN 100G 30CV 110CG 60CG 10CG 10CG 10CG 10CG 10CG 10CG 10CG 1	痛みが強くない時は医療者に注意を向けて返答してくれる 痛みの強さのサイン:左側腹部や標節を押さえながら前限みになってこらえるようにぐるぐる歩き回る 動から自分で歩いている 高ち書くにつれて足取りも開盤くなっていった 痛みはないーかけら降子もなく音通に歩く、 食後切り間の理症保持が可能と状態 ないすからペッドに移乗できたので痛みはないと判断する 痛みはないーいつもと同じ動き方、、 手術前は小頭なで不安定な歩き方だった 痛みが寒になったサイン:何時間かの関格子に座れる、 表情も良い ま和と違いなったサイン:何時間かの関格子に座れる。 表情も良い ま和と違いなったサイン:何時間かの関格子に座れる。 表情も良い ま和と違いなったサイン:何時間かの関格子に座れる。 表情が見ない。 実情が弱やかな様子で意思速度がはなれる 一般実情が呼らい。実情が弱やかる 高い時はナースコールで訴えてくるか、痛い実情をするが、今日は実顔があったし 食事形態も見かなと様子で悪しなが、 高みはないたろう。穏やかに適ごしている。 痛みはないとろう。母やかに適ごしている。 痛みはないとろう。母やかに適ごしている。 痛みはないとう 素がはないと言う 素になったサインは寝ること 最近のことをどのくらい変えているか・影像力を加えない。 最初はないと言う 素になったサインは寝ること 最近のことをどのくらい変えているか。影像力を確認する(患者の言動を信じる度合いにつながる) 環境がありたとを必ずながない。 第今はないと言う 素になったサインは寝ること 最近のことをどのくらい変えているか、記憶力を確認する(患者の言動を信じる度合いにつながる) 環境から含めているいんなことが弱くなけれないのかなと思った 南前は乗らと含めているいんなことが弱くあられないのかなと思った 南前は乗らと含めているいんなことが弱くなられないのかなと思った 南前は乗らと含めているいんなことが弱くあられないのかなと思った 南前は乗らと含めているいんなことが弱くあらなことを最めが成なしなくなやってきた・認知力
6 独していると 患者のいつもの状態の指標や痛みの指標と比べ、患者に痛 患者の記憶力と認	痛い部分を押さえ表情が苦しそうで落ち着きがない 歩き方の変化 動き方の変化 数値の変化 食事盤 穏やかさ 薬が使用されていない 言語による表現がない 騒撃がとれている	16DCN 16DCN 11DCG 11DCG 11DCG 5DCC 11DCG 5DCC 11DCG 16DCN 10DCG 16DCN 10DCG 16DCN 10DCG 16DCN 10DCG 16DCN 10DCG 11DCG 11	痛みが強くない時は医療者に注意を向けて返答してくれる 痛みの強さのサイン: 左側腹部や腰部を押さえながら前限みになってこらえるようにぐるぐる歩き回る 朝から自分で歩いている 薄ら着くにつれて足取りも問題なくなっていった 痛みはないしかがら嫌子もなく普通に歩く、 食後99分間の座位を持が可能と状態 車いすからベッドに移乗できたので痛みはないと判断する 痛みはないしいつもと同じ動き方、、 手術前は小頬みで不安定な歩き方だった 痛みが楽になったサイン: 何時間かの関格子に座れる。 表情を良い 素和な細になる 無要情な中に突細が見られるようになっているので薬になっているのだろう: 痛みの有無 病後は穏やかな様子で意思地薄がはかれる 大情が明らい、、実情が穏やか 無要情な中に突細が見られるようになっているので薬になっているのだろう: 痛みの有無 病後は後やかな様子で意思地薄がはかれる 大情が明らい、、実情が経やか 痛みはないだろう一個やかに過ごしている。 痛みはないだろう一個やかに過ごしている。 痛みはないだろう一個やかに過ごしている。 痛みはないだろう一個やかに過ごしている。 痛みはないどろう一個やかに過ごしている。 痛みはないどろう一個やかに過ごしている。 痛みはないと言う 業になったサインは寝ること 最近のことをとのくらい寒えているか、影他力を確認する(患者の言動を信じる度合いにつながる) 家践からの質問にどう答えているかの発し、同じ質問を看慮的からもする。時間をおいて質問をしてみる 関わり自然のは痛み以外にないるが表とれているが
6 独していると 患者のいつもの状態の指標や痛みの指標と比べ、患者に痛 患者の記憶力と認知力	痛い部分を押さえ表情が苦しそうで落ち着きがない 歩き方の変化 動き方の変化 数値の変化 食事盤 穏やかさ 薬が使用されていない 言語による表現がない 騒撃がとれている	16DCN 16DCN 11DCG 1DCG 1DCG 5DCC 1DCG 5DCC 1DCG 1DCG 1DCG 1DCG 1DCG 16DCN 16DC	痛みが強くない時は態度者に注意を向けて返答してくれる 痛みの強さのサイン:左側腹部や標節を押さえながら前限みになってこらえるようにぐるぐる歩き回る 翻から自分で歩いている 高ち着くにつれて足取りも問題なくなっていった 痛みはないかがら様子もなく普通に歩く、 食後の分間の座位保持が可能な状態 東いすからベッドに移乗できたので痛みはないと判断する 痛みはないかいのもと同じ動き方、、 手術前は小側みで不安定な歩き方だった 痛みが楽になったサイン:何時間かの関格子に座れる。 表情を良いなる 無要情な中に突痛が見られるようになっているので楽になっているのだろう:痛みの有無 術後は色やかな様子で意思維護がはかれる 最大情な呼らかか。 実情が見やかな様子で変と現維護がはかれる を事務改進も良好 を事務改進したいる 痛みはないだろう・値やかに過ごしている。 痛みはないだろう・値やかに過ごしている。 痛みはないだろう・値やかに過ごしている。 痛みはないだろう・値やかに過ごしている。 痛みはないだろう・値やかに過ごしている。 痛みはないだろう・値やかに過ごしている。 痛みはないだろう・値やかに過ごしている。 痛みはないだろう・値やかに過ごしている。 痛みはないと言う 素になったサインは寝ること 最近のことをどのくらい覚えているかに思したいたの 精節は重なも含めていろんなことが考えられないのかなと思った 新聞で目にちを確認しているので薬の自付も理解できる その場の会話は成でする。裏が知う との場の会話は成でする。まな力 との場の会話は成でする。まな力 との場の会話は成でする。まな力 との場の会話は成でする。まな力 との場の会話は成でする。まな力 との場の会話は成でする。まな力 との場の会話は成でする。まな力 との場の会話は成でする。まなからことも忘れている
9 独していると 患者のいつもの状態の指標や痛みの指標と比べ、患者に痛 患者の記憶力と認知	痛い部分を押さえ表情が苦しそうで落ち着きがない 歩き方の変化 動き方の変化 数値の変化 食事盤 穏やかさ 薬が使用されていない 言語による表現がない 騒撃がとれている	16DCN 16DCN 11DCG 1DCG 1DCG 6DCG 1DCG 6DCG 1DCG 6DCG 16DCN 1	痛みが強くない時は態度者に注意を向けて返答してくれる 痛みの強さのサイン:左側腹部や標節を押さえながら前限みになってこらえるようにぐるぐる歩き回る 翻から自分で歩いている 高を育者くにつれて足取りも問題なくなっていった 痛みはないーかほう様子もなく普通に歩く、 食後の9分間の座位保持が可能な状態 東いすからベッドに移乗できたので痛みはないと判断する 痛みはないーかいのもと同じ動き方、、 手術前は小別みで不安定な歩き方だった 痛みが楽になったサイン:何時間かの関格子に座れる。 装積も良い 差和な配になる 無数情な中に突痛が見られるようになっているので楽になっているのだろう:痛みの有無 術後は移やかな様子で意思を進かばかれる 表情の好い、実情が穏やかな 薬を情が呼いたいる 本の大変になる 無効けないたる。 最初はないだろう一穏やかに過ごしている。 痛みはないだろう一穏やかに過ごしている。 痛みはないだろう一穏やかに過ごしている。 痛みはないだろう一種やかに過ごしている。 痛みはないだろう一種やかに過ごしている。 痛みはないだろう一種やかに過ごしている。 痛みはないどろう一種やかに過ごしている。 痛みはないどろう一種やかに過ごしている。 痛みはないと言う 素になったサインは寝ること 最近のことをどのくらい覚えているかと関し、同じ質問を看護的からもする。時間をおいて質問をしてみる 関節といたがよりな話をしていた。 時前は重なも含めていろんなことが形としないのかなと思った 時前は重なも含めていろんなことが形としないのかなと思った 時前は重なも含めていろんなことがあるとれないのかなと思った 時前は重なも含めていろんなことがあるとしているので寒の自付も理解できる その場か会話は成でする。最知力 シリ変がありちょっと会話が成立しなくなってきた:認知力 ミラン毒薬かったこともとを覚えているときは、素がかったこともも忘れている
9 独していると 患者のいつもの状態の指標や痛みの指標と比べ、患者に痛 患者の記憶力と認知力を	郷い部分を押さえ表情が苦しそうで落ち着きがない 歩き方の変化 動き方の変化 数情の変化 女事監 穏やかさ 薬が使用されていない 言語による表現がない 睡眠がとれている 現在の記憶力・認知力を評価する	160CN 160CN 100G 30CV 110CG 60CG 160CN 110CG 160CN 110CN 110	痛みが強くない時は医療者に注意を向けて返答してくれる 痛みの強さのサイン:左側腹部や標節を押きえながら前限みになってこらえるようにぐるぐる歩き回る 動から自分で歩いている 悪ち書くにつれて足取りも問題なくなっていった 痛みはないーかけう様子もなく普通に歩く、 食後切り間の座位除時が可能な状態 和いすからペッドに移乗できたので痛みはないと判断する 痛みはないーいいらと同じ動き方、 手術前は小剣みで不安定な歩き方だった 痛みが素になったサイン:何時間かの関格子に座れる。 要情も良い を和な悪になる 無数値となる 無数値となる 無数値となった時子で表現が見かれると、 無ないないと判断があったと 金事形度出りかない様子で息息を通がはかれる 表情が弱かい、実情が穏やかい。 東京のサービ楽器が見られるようになっているので楽になっているのだろう:痛みの有無 情後は他やかな様子で急息を適がはかれる 表情が弱かい、実情が穏やかい。 電かはないたろうの観やかに第二でであるで、今日は実顔があったと 金事形度出身が大きた。 最近からと認識した上でレスキューが減っていない 痛みはないだろうの穏やかに第二とている。 痛みはないと言う 単ないと認識した上でレスキューが減っていない 痛みはないとう。 本のよりを選集した上でレスキューが減っていない 痛みはないとう。 本のよりを選集した。 最近のことをどのくらい意えているか。 実情が自分が大きないのかなと思った 動力の始かは高み見外はいらいうな話をしていた。 精明は高いるとを認いないかっなと思った 特別は高いるとを認いないかっなと思った 特別は高いるときないのかなと思った 対別がありらよっときる影が表立しなくなってきた。認知力 とつき場かったととを愛えていない 東京のもの会話は成立する:退却力 とうるきゅうととを選が返立しなくなってきた:認知力 とうるきゅうととを選が返立しなくなってきた。認知力 とうるきゅうととを受えていることとを覚えていることとを覚えていることを認めまたい。
の 独していると 患者のいつもの状態の指標や痛みの指標と比べ、患者に痛 患者の記憶力と認知力を評価	郷い部分を押さえ表情が苦しそうで落ち着きがない 歩き方の変化 動き方の変化 数情の変化 女事監 穏やかさ 薬が使用されていない 言語による表現がない 睡眠がとれている 現在の記憶力・認知力を評価する	160CN 160CN 100G 30CV 110CG 60CG 160CN 110CG 110	痛みが強くない時は医療者に注意を向けて返答してくれる 痛みの強さのサイン:左側腹部や標節を押きえながら前限みになってこらえるようにぐるぐる歩き回る 動から自分で歩いている 悪ち書くにつれてと取りも問題なくなっていった 痛みはないーかはう様子もなく普通に歩く、 食後切り間の座位保持が可能な状態 単いすからペッドに移乗できたので痛みはないと判断する 痛みはないーいつもと同じ動き方、 手術前は小剣みで不安定な歩き方だった 痛みが楽になったサイン:何時間かの関格子に座れる。 要情をはい を私な無になる 無数値な中に交通が見られるようになっているので楽になっているのだろう:痛みの有無 物後は他やかな様子で意思疾動がはかれる 要情の呼のい、実情が穏かか。 強い時はナースコールで訴えてくるか、痛い実情をするが、今日は実顔があったし 食事形度は分かな様子で意思疾動がはかれる 受害の呼のい、実情が穏かか。 確い時はナースコールで訴えてくるか、痛い実情をするが、今日は実顔があったし 食事形度は大いろう。穏やかに過ごしている。 痛みはないとうう 最近になうと認識した上でレスキューが減っていない 痛みはないとうう。 素がはないとうう。全性やかに過ごしている。 痛みはないとうう。そくの最からないのかなと思った 新聞は痛みを受がいるからない。 新聞は痛みを必ずいろんなことが考えられないのかなと思った 新聞は痛から会をはしているので寒の自行も死後できる その最から結は放皮する。は影か 3つき動かと痛がないているからできた まの場から着は放皮するときを覚えていなが。 新聞は痛から急遽はしているので寒の自行も気がさると 新聞ないるときを覚えているが、 新聞ないるときを覚えているが、 新聞ないるときを覚えているが、 新聞ないるととを覚えている。 新聞ないるととを覚えている。 新聞ないるときがいるととも思れている 顕確後が必じないから悪の効果をと患者のまたとも思れている 観光を必ずいから思想を達在の意味を走着のまたとも思れている。 短期を聴したがいから悪の効果を生着句を注着できない。 短期を使しかないから悪の効果を生着句を注着できない。 短期を使しかないから悪の効果を生着句を注着できない。 短期を使しかないから悪の効果を生着句を注着できないので、 頻解を使したがないない。最初を痛みの効果の情に出来ない 痛みがおきまれば、痛かかととを必要がある。
の 独していると 患者のいつもの状態の指標や痛みの指標と比べ、患者に痛 患者の記憶力と認知力を評価する	郷い部分を押さえ表情が苦しそうで落ち着きがない 歩き方の変化 動き方の変化 数情の変化 女事監 穏やかさ 薬が使用されていない 言語による表現がない 睡眠がとれている 現在の記憶力・認知力を評価する	16DCN 16DCN 11DCG	痛みが強くない時は医療者に注意を向けて返答してくれる 痛みの強さのサイン:左側腹部や腰部を押さえながら前限みになってこらえるようにぐるぐる歩き回る 朝から自分で歩いている 薄ら食いこれて足取りも問題なくなっていった 痛みはないしかはう様子もなく普通に歩く、 食後99分間の座位保持が可能と状態 車いすからベッドに移乗できたので痛みはないと判断する 痛みはないしいつもと同じ動き方、、 手術前は小頬みで不安定な歩き方だった 痛みが薬になったサイン:何時間かの関格子に座れる。 養情も良い 変和な細になる 無表情な中に実顔が見られるようになっているので薬になっているのだろう:痛みの有無 病後は目をかな様子で意思患療がはかれる 実情が弱るい、、実情が穏やか 痛みはないにあう。 痛みはないにある 痛みはないだろう一般やかに過ごしている。 痛みはないだろう一般やかに過ごしている。 痛みはないどろう一般やかに過ごしている。 痛みはないどろう一般やかに過ごしている。 痛みはないどろう一般やかに適ごしている。 痛みはないどろう一般やかに過ごしている。 痛みはないどろう一般やかに過ごしている。 痛みはないどろう一般やかに過ごしている。 痛みはないどろう一般やかに過ごしている。 痛みはないどろう一般やかに過ごしている。 痛みはないどろう一般やかに過ごしている。 痛みはないどろう一般をかに過ごしている。 痛みはないどろう一般がいるが良と、 表述のこととをどのくらい覚えているか、影像力を確認する(患者の言動を信じる度合いにつながる) 実践からの質問にどう答えているかで薬の自付も見解できる その場の会話はなずる。影響が成したくなってきた・認知力 うっき動からなする。またい 野間で追したらを確認しているので薬の自付も見解できる その場の会話はなずる。影響が成したくなってきた・認知力 うっき動からなどもとを覚えている 野間が退したらなら素の効果を患者自身性評価できない (思索がらないため時間が過を迫えない) 知知能能しかなく薬の効果を患者自身性評価できない (関系能しかなく薬の効果を自己評価できないので) 顔痛剤の効果の評価は看護師が観察していかなければならない 痛みを考え利で評価出来る人はいない
6 塊していると 患者のいつもの状態の指標や痛みの指標と比べ、患者に痛 患者の記憶力と認知力を評価する、持続して	郷い部分を押さえ表情が苦しそうで落ち着きがない 歩き方の変化 動き方の変化 数情の変化 女事監 穏やかさ 薬が使用されていない 言語による表現がない 睡眠がとれている 現在の記憶力・認知力を評価する	160CN 160CN 110CG 30CV 110CG 60CG 30CV 110CG 60CG 160CN 10CG 160CN 10CG 10CG 10CG 10CG 10CG 10CG 10CG 10CG	痛みが強くない時は医療者に注意を向けて返答してくれる 痛みの強さのサイン:左側腹部や腰部を押きえながら前限みになってこらえるようにぐるぐる歩き回る 動から自分で歩いている 落ち着くにつれて足取りも問題なくなっていった 痛みはないーかはう様子もなく普通に歩く、 食後の分間の座位保持が可能な状態 率いすからペッドに移乗できたので痛みはないと判断する 痛みはないーかのもと同じ動き方、、 手術前は小剣みで不安定な歩き方だった 痛みが楽になったサイン:何時間かの関格子に座れる、 表情も長い。 左和な悪になる 悪変情な中に大震が見られるようになっているので楽になっているのだろう:痛みの有無 術後は移かかな様子で意思療動がはかれる 表情が弱わい、実情が穏やかっ 薬情が弱わい、実情が穏やかっ 素い時はナースコールで第えてくるか、痛い実情をするが、今日は実顔があったし 食事形像は色やかな様子で意思療動がはかれる 大きが形状でいる 痛みはないろう一般やかに満ごしている。 痛み止めと認識した上でレスキューが減っていない 痛みはないろう一般やかに満ごしている。 痛み止めと認識した上でレスキューが減っていない 痛みはないるうっ 一般やに適ごしている。 薬がため、皮膚が見から、診臓力を確認する傷毒があらもする。時間をおいて質問をしてみる 関わり始めは痛みら含めていろんなことが弱えられないのかなと患った 新聞で目にちを聴見がれるがあるをしている。 遊園がありたことを選れているとい 短端がありたことを覚えているかに表している。 遊園がありたことを覚えているとい 短端がありたことを覚えていたいもといた。 短端がないたいらと変も変しているので変の目骨も理解できる その場の会話は成立する、認め力 なっきるからだととを覚えていたいもとい 短端を見いないいると変の効果を患者自身は影像できない 短端が起いないいると変の効果を患者自身は影響できない 短端が起いないいると変の効果を患者自身は影響できない 短端を追いがいいのと変もの効果を患者自身は影響できない 短端を述りないいのと変もの効果を患者自身は影響できない 短端を見いがいいのと変もの効果を患者自身に影響をない 短端を見いがいいのと変もの効果を患者自身に影をしない 短端を見いたいでのとないので、過去の痛らがとうだったかの肝偏いは形まない 編みが見らままれば、痛かったことを必れている 編みを含えりを支まれば、痛かったことを必れている。 本のなりを表とないときは、家族内薬のもと医師が身体診察しながら痛みの有無を変散と一緒に確認する
の 独していると 患者のいつもの状態の指標や痛みの指標と比べ、患者に痛 患者の記憶力と認知力を評価する がある。 持続して 患者の記憶力と認知力を評価する がある。	嫌い部分を押さえ表情が苦しそうで落ち着きがない 歩き方の変化 動き方の変化 教情の変化 食事盤 穏やかさ 薬が使われていない 言語による表現がない 睡眠がとれている 現在の配値力・認知力を評価する	160CN 160CN 110CG 30CV 110CG 60CG 30CV 110CG 60CG 160CN 10CG 160CN 10CG 160CN 10CG 160CN 10CG 10CG 10CG 10CG 10CG 10CG 10CG 10CG	痛みが強くない時は医療者に注意を向けて返答してくれる 痛みの強さのサイン:左側腹部や腰部を押きえながら前限みになってこらえるようにぐるぐる歩き回る 動から自分で歩いている 落ち着くにつれて足取りも問題なくなっていった 痛みはないーかはう様子もなく普通に歩く、 食後の分間の座位保持が可能な状態 率いすからペッドに移乗できたので痛みはないと判断する 痛みはないーかのもと同じ動き方、、 手術前は小剣みで不安定な歩き方だった 痛みが楽しなったサイン:何時間かの関格子に座れる。 表情も長い 差和な悪になる 悪皮膚な中に大変部が見られるようになっているので楽になっているのだろう:痛みの有無 衝後は色かっな様子で思想を連がはかれる 素を情が弱らい、実情が穏やかっ 鑑い時はナースコールで弱えてくるか、痛い実情をするが、今日は笑顔があったし 食事形像は色やかな様子で思想を連がはかれる 大倉が明らい、実情が穏やかっ 薬がいたいる 塩みはないろう一般やかに満ごしている。 塩みはないろう一般やかに満ごしている。 塩みはないろう一般やかに適ごしている。 塩みはないるう一般やかに適ごしている。 塩みはないるう一般やかに適ごしている。 塩みはないるう一般やかに適ごしている。 塩みはないるうの質問によう答えているかけでは、同じ質問を看護師からもする。時間をおいて質問をしてみる 関かり始めは痛みら含めていろんなことが弱えられないのかなと思った 精前は集みも含めていろんなことが弱えられないのかなと思った 精前は集みも含めていろんなことが弱えられないのかなと思った 表面でしたとを変えていたいとしまれないのかなと思った 動間で目にちを聴しているので思り付も理解できる その場の会話は成立する、窓切り 立っき場からたととを選えていたいもとい 短端を扱うないいのと思うを最近しななないでは動性とない 短端を認りないいらと思うの患を患者自身に影響できない 短端を必ずいいいらと思うの患を患者自身に影響している 虚確なないないの言葉の効果を患る自身に影響している 超端を関いといいのと思うの影響を患者自身に影響を表れない 電光が見まえれば、電かったことを起れている 温みが見るままれば、電かったことを起れている 電光が見なれているでは出来る人に対している
の 独していると 患者のいつもの状態の指標や痛みの指標と比べ、患者に痛 患者の記憶力と認知力を評価する らゆる角膜は があるのは 情報の不一	嫌い部分を押さえ表情が苦しそうで落ち着きがない 歩き方の変化 動き方の変化 教情の変化 食事盤 穏やかさ 薬が使われていない 言語による表現がない 睡眠がとれている 現在の配値力・認知力を評価する 痛みの時間経過や時景列の評価が出来ない	160CN 160CN 110CG 30CV 110CG 60CG 10CG 10CG 10CG 10CG 10CG 10CG 10CG 1	痛みが強くない時は医療者に注意を向けて返答してくれる 痛みの強さのサイン:左側腹部や標節を押きえながら前限みになってこらえるようにぐるぐる歩き回る 朝から自分で歩いている 常ら者くにつれて足取りも問題なくなっていった 痛みはないしかほう様子もなく普通に歩く、 食後99分間の座位保持が可能な状態 東いすからベッドに移乗できたので痛みはないと判断する 痛みはないしいつもと同じ動き方、、 手術前は小刺みで不安定な歩き方だった 痛みが薬になったサイン:何時間かの関格子に座れる、 養情も良い 変和な悪になる 無表情な中に突厥が見られるようになっているので薬になっているのだろう:痛みの有無 態後は色かっな様子で意思連絡がはかれる 表情が弱らい、実情が穏やか 編・時はナースタールで訴えてくるか、痛い表情をするが、今日は実績があったし 食事程度最も良好 な事理を最も良好 な事の理点といる 強みはないだろう」の穏やかに適ごしている。 痛みはないどろう。強かした世の人の穏やに適ごしている。 痛みはないどろうの感やかに適ごしている。 痛みはないどろう 動力もよった骨やかに適ごしている。 痛りはないどろう を変した上でレスキューが減っていない 痛みはないと言う 業になったサインは寝ること 最近のことをどのくらい覚えているか、変性力を確認する(患者の言動を信じる度合いにつながる) 家族からの質問にどう答えているのや悪し、同じ質問を看機的からもする。時間をおいて質問をしてみる 関わら動わは痛み以外はいるいろな話をしていた の語の主義はなする。患めた の語の主義はななする。またい の語の主義はななする。またいるかなと思った 発問で目にもを確認しているので薬の目付も理解できる での場の会話はなずる。またいるともと表れる 動類で目にもを確認しているので表ともだれる 記述がないため時間が過を目とない 知識などいため時間が過を目とない 知識などいため時間が過を目とない 知識などいためら素の効果を自己評価できないので) 額高病の効果の評価は看護師が観察していかなければならない (毛帯が手たているので) 過去の痛みがどうだったかの評価は出来ない 痛み少さを見べているので) 過去の痛みがどうだったかの評価は出来ない 痛みがきまえれば、痛かったこととを試れている 薬療の手見がでが使出まるくないとさば、家族回席のもと医師が存む診定しながら痛みの有無を家族と一緒に確認する 家族の見るてと、それときてい、実験の原のもと医師が存むきしながら痛みの有無を家族と一様に確認する 家族の見るてと、それとときて、実験回廊のもと医師が存むまたい